

2020年11月22日 司祭 越山 哲也
八戸聖ルカ教会

降臨節前主日（特定 29） 説教

「最も小さい者とはだれか」

〔旧約聖書〕 エゼキエル書 34:11~17 〔使徒書〕 コリントの信徒への手紙 I 15:20~28 〔福音書〕 マタイによる福音書 25:31~46
--

主の平和が皆さんと共にありますように。

「ブラックフライデー」という言葉を先週幾度か耳にしました。Amazon、楽天などが競って安売りセールをしていました。あまり聞きなれない言葉でしたので調べてみると11月の第4木曜日の翌日のことで、小売店などで大規模な安売りが実施されるそうです。アメリカでは感謝祭の翌日は正式の休日ではないのですが休暇になることが多くて、ブラックフライデー当日は、感謝祭プレゼントの売れ残り一掃セールになっているそうです。（参照 Wikipeddia）

11月の第4木曜日は「(収穫) 感謝祭」です。教会暦の1年の最後の日曜日である本日、降臨節前主日は「収穫感謝祭」です。ブラックフライデーも教会暦に照らしてみると面白いですね。

ハロウィン、カーニバルなどの諸イベントもそうですね。

私たちの信仰の旅路は神の国の完成を待ち望むことです。雨宮慧司祭は「教会は終末に向かって歩むキリストの体」と言っています。

教会暦最後の主日の名称は「降臨節前主日」ですが、いろいろな呼び方があります。

「王であるキリスト」、「キリストによる回復」という呼び名があります。

終末（神の国の完成）には王であるキリスト・イエスが再臨されて私たちは一人一人はその御前に立たされます。そのことが記されているのが本日の福音書です。

すべての国の民は右と左に分けられます。右側に分けられた人は、神の国を受け継ぐ人です。

イエス様は「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたから

だ」(マタイ 25:35~36) と右側に人たちに言います。

ところが、右側にいた人たちはそのことについて実に覚えがないと答えるのです。

今日の福音の中心はここだと思えます。

私たちの人間関係は「win win」がおそらく多くの人の賛同を得られるのではないのでしょうか。

お互いに得をするということです。しかし、これでは右側ではないですね。

計算して愛の奉仕をする下心では、間違いなく右側にはいきませんね。

私自身、このことについてどうだろうかと考えてみました。いろいろなケースがあると思えます。

「Win WIN」は当然あります。「計算した下心」も正直にいうとあります。これは隣人への愛という大義名分で実は、自己満足、偽善であると自己反省しています。

しかし、たまに自分では全く覚えていないのですが、感謝の言葉をかけられることがあります。

「はて、そんなことがあったかな？」と過去の記憶をたどるのですが思い出せません。でもこのようなことはごくごくわずかです。そう考えると今日の福音書に依れば私はとてもではありませんが右側に選ばれないなと思ってしまいます。

人間の記憶は意外としっかりしているもので私たちはけっこうしたたかではないのでしょうか。

右側に選ばれる人はどんな人なのだろうか、本当にいるのでしょうか。

そんなことを考えていて目に留まった言葉が「はっきり言っておく。私の兄弟である最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」(マタイ 25:40) です。

王としてこの世界に来られるイエス様は、最も小さい者として来られるのです。最も小さい者に目を向けなさいというメッセージとして心に留めることも大事ですが、最も小さい者は実は「私」自身なのです。最も小さい者である「私」に対してイエス様は祝福してくださっているのです。

自己本位で、計算高くしたたかな心を持つ「私」にです。この源に常に立ち返っていくことが大切だなと思えます。今日の自分があるのは誰のおかげか、今日生かされているのは誰のおかげか、いつも忘れないで生きていきたいと思えます。収穫感謝の日曜日に、今年1年のすべての恵みに感謝します。